

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	権 裕美 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	<p>本論文は、東インド会社を通して大量にもたらされた更紗、すなわちアンディエンヌが、近世フランスでどのように模造捺染布を生み再輸出されたのか、またフランス服飾にいかにか受容され新たなモードを生み出したのかを分析したものである。第1章ではリシュリュー・コレクションに残されている布見本集とポンパドゥール夫人の財産目録から綿布を示す多彩な名称を検証し、第2章では更紗の輸入・製造禁止令が解かれた後盛んになる国内産更紗に関し、文様の変化が捺染技法の展開に従うこと、文様が異国趣味と田園趣味に呼応することを示している。第3章では、トワル・ド・ジュイ博物館等収蔵の服飾遺品、『ギャルリー・デ・モード』誌等の版画や絵画作品の描写を通して、更紗を素材とした衣裳が簡素化に呼応したモードであることを示し、更紗が18世紀の生活スタイルの変化に応じた新たなモードの創造に寄与したことを結論としている。</p> <p>第1回審査委員会では、布見本集、財産目録、モード誌等の史料分析を行った努力は評価されたが、先行研究に基づいた問題提起と、それを受けた結論が明確でない点、また服飾論・フランス文化論として位置付ける客観性を欠いている点が指摘された。ことばの概念に対する不注意や史料説明の不足、不適切な翻訳についても修正が求められた。第2回審査委員会では、近世服飾史における位置付けの補足により論旨がより明快になったが、なお結論に不足があること、また誤訳等の不備が散見され、修正が求められた。</p> <p>申請者は、これらの問題を再考、修正を試みた上で公開発表会に臨み、史料を提示しながら明確に説明し、質問には適切に応答した。最終審査委員会において、本論文は、視野の拡大と論旨の構築に課題を残したものの、一定の成果を認め、本論文が博士(人文科学)、Ph.D. in Fashion History and Theoryに値するものと判断された。</p>
論文題目	17・18世紀フランス・モードにおける アンディエンヌの受容	
審査委員	(主査) 教授 徳井 淑子	
	教授 安成 英樹	
	准教授 鈴木 禎宏	
	助教 田中 琢三	
インターネット 公表	日本女子大学 教授 佐々井 啓 ○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否) ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="radio"/> 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、 もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文 全文のインターネット公表について	

